

これまでに学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次の文の――部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

(1) 電車の乗車けんを買う。

(2) ちいきの歴史を調べる。

(3) 世界いさんに登録される。

(4) 勝利をおさめる。

(5) ろうかを走るとあぶないです。

二 次の三字の熟語は、どのような構成ですか。あとのアからウまでの中から一つ選び、その記号を書きましよう。

(1) 高性能

(2) 大中小

(3) 飲食店

ア 一字の語＋二字熟語 イ 二字熟語＋一字の語 ウ 一字の語が三つならぶ

三 次の複合語は、どのような言葉を組み合わせたものか、(例)のように書きましよう。

(例) ピアノ教室 ↓ ピアノの 教室 (外来語＋漢語)

(1) 待ち時間 ↓

(+)
---	---	---

(2) 雪まつり ↓

(+)
---	---	---

言葉の特徴や使い方に関する事項

これまでに学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次の文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

(1) 電車の乗車けんを買う。

(2) ちいきの歴史を調べる。

(3) 世界いさんに登録される。

(4) 勝利をおさめる。

(5) ろうかを走るとあぶないです。

券	地域	遺産	収める	危ない
---	----	----	-----	-----

◆解説◆
 (4)「おさめる」と読む漢字は、ほかに【納める】【治める】【修める】があります。
 【収める】は、良い結果を得ることを表します。
 【納める】は、お金や品物などを受け取るべき人にわたすことを表します。
 【治める】は、政治を行うことを表します。
 【修める】は、学問などを身につけることを表します。

二 次の三字の熟語は、どのような構成ですか。あとのアからウまでの中から一つ選び、その記号を書きましよう。

(1) 高性能

ア

(2) 大中小

ウ

(3) 飲食店

イ

ア 一字の語＋二字熟語 イ 二字熟語＋一字の語 ウ 一字の語が三つならぶ

三 次の複

(例) ピ

(1) 待ち時間 ↓

◆解説◆
 和語は、もともと日本にある言葉で、漢字で書いたときに訓で読みます。
 漢語は、古くに中国から入ってきた言葉で、漢字で書いたときに音で読みます。
 外来語は、中国以外の外国から入ってきた言葉で、ふつうカタカナで書きます。
 (1)「待ち」のように、の複合語になるとき、元の言葉と発音が変わることがあります。

(例) 待つ 時間

(和語) + (漢語)

(2) 雪まつり ↓

(例) 雪のまつり

(和語) + (和語)

これまでに学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次の文の――部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがながも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

(1) ちいきの歴史を調べる。

(2) しんぞうの音を聞く。

(3) 足りない言葉をおぎなう。

(4) 昔の人のくらしを想像する。

二 次の文の（ ）には「ジ」と読む漢字が入ります。それぞれ当てはまる漢字を書きましょう。また、三つの漢字の同じ部分を書きましょう。

・古くからある（ ）院にお参りにいく。

・お弁当を（ ）参ってください。

・休み（ ）間に図書室で本を借りた。

同じ部分



三 下の漢字の部分が表す意味をあとのアからエまでの中から一つ選び、その記号を○で囲みましょう。

ア 水に関係のある漢字に使われる イ 手や手の動きに関係のある漢字に使われる
ウ 体に関係のある漢字に使われる エ 木に関係のある漢字に使われる

四 次の文の主語と述語に当たる言葉を(1)はアからエまでの中から、(2)はアからオまでの中からそれぞれ一つ選び、その記号を書きましょう。

(1) 話(ア)が おもしろ(イ)かったので、わたし(ウ)は 笑(エ)った。 主語 述語

(2) わたし(ア)は 弟(イ)が 作(ウ)った クッキー(エ)を 食(オ)べた。 主語 述語

五 次の文を、つなぐ言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。
天気が良かったので、公園へ出かけた。

六 次の文を、指し示す言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。
祖母が育てた花がきれいにさいた。

言葉の特徴や使い方に関する事項

これまでに学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一次の文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

(1) ちいきの歴史を調べる。

(2) しんぞうの音を聞く。

(3) 足りない言葉をおぎなう。

(4) 昔の人のくらしを想像する。

二次の文の（ ）には「ジ」と読む漢字が入ります。それを書きましょう。また、三つの漢字の同じ部分を書きましょう。

暮らし	補う	心臓	地域
-----	----	----	----

◆解説◆
同じ部分を持つ漢字は、音が共通する場合や、意味のうえでつながりがある場合があります。

同じ部分

寺

- ・ 古くからある (寺) 院にお参りにいく。
- ・ お弁当を (持) 参してください。
- ・ 休み (時) 間に図書室で本を借りた。

三 下の漢字の部分が表す意味をあとのアからエまでの中から一つ選び、その記号を○で囲みましょう。



ア 水に関係のある漢字に使われる
ウ 体に関係のある漢字に使われる
エ 木
イ 手

四 ◆解説◆「話がおもしろかったので」「が」「わたしは笑った」の理由を表しています。

◆解説◆
ひと組の主語と述語のまとまりが、別のまとまりとさまざまな関係で結びつくことがあります。

(1) ア 話が おもしろかったので、
ウ わたしは 笑った。

主語 ウ
述語 エ

(2) ア わたしは 弟が 作った クッキーを 食べた。

主語 ア
述語 オ

五 次の文 ◆解説◆「弟が作った」が「クッキーを」をくわくわくしています。 天気良かったので、公園へ出かけた。

(例) 天気良かった。だから、公園へ出かけた。

六 次の文を、指し示す言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。 祖母が育てた花がきれいにさいた。

(例) 祖母が花を育てた。その花がきれいにさいた。